

第27回 令和7年5月23日（金）

「弓道部女子個人戦の鳥取インターハイ出場決定おめでとうございます。（HP なので個人名は避けておきます。）大きな舞台で持てる力を存分に発揮してください。」

「今日は働き方の変化について。日本は従来「年功序列」「終身雇用」の会社が多く、メンバーシップ型雇用と言われてきました。それがいまは欧米型の「自分の得意なスキルを会社に求められて雇用される」ジョブ型雇用が増えています。およそ3割の新入社員が3年以内に離職すると言われています。」

ビズリーチとかd u d aのCMでお馴染みですが、自分のスキルを会社を買ってもらい、そこで自分の役割に集中するジョブ型の働き方が増えています。

ハイクラス転職以外でも、隙間バイトなどはまさにその典型です。職場の人間関係づくりに煩わしさを感じている人にとってはこちらの方が楽と感じるかもしれません。

日本のメンバーシップ型雇用では定年まで会社に勤めることがスタンダードだったので、社員旅行や飲み会で人間関係を良くする（余計悪くなることもあったかもしれませんが…）企画があり、花見に駆り出され、場所取りをする新人の仕事は恒例行事でした。いまなら「それは私の仕事ではありません。」と言われてしまいそうですね。

代わりとして日本の会社は解雇をせず、社員を家族同様に扱い大切にすることが多かったように思います。いまは日本でも大きな会社で「何万人解雇」などというニュースが珍しくなくなってきました。

これからますますジョブ型の社会になっていくと思います。なぜなら将来を見通せない今の時代に、確実に定年まで残ると確信できる会社や仕事が少ないからです。

みなさんが通っている学校という職場はちょっと複雑です。公立学校は何年かで必ず異動しますから、ジョブ型の職種ということができます。しかし担任の先生を中心とした学年団や、グループで行う業務など、メンバーシップ型で人間関係を重視しなければうまくいかないという仕事が多く、コミュニケーションはとても大切です。

メンバーシップ型とジョブ型のどちらがいいか、悪いかということではなく、時代によって日本でもジョブ型に移行せざるを得ないということだと思います。ただ日本に古くからある気遣いや親切心など、日本人の良さは失ってほしくないと考えています。

コミュニケーションがとれる優しい日本型の働き方とはどのようなものなのか、しっかりと共通意識を持って失わないようにしたいと思います。